

<能力強化事業> 「多角的な視点で物事を捉える」



ICAN 日本事務局
西坂 幸
～プロフィール～
大学卒業後、民間企業での事業所運営や広報業務を経て2018年9月より現職。

アイキャンでは、フィリピンの路上やごみ処分場周辺で生活する人々・子どもたちと交流し、「できること」を考えるスタディツアーを2000年から実施してきました。しかし、現在はコロナ禍により、実際に現地へ行くことができない状況が続いています。そこで、日本にいながら現地の生の声に触れ、様々な視点で物事を捉えることで、自分にできることを考える機会として、オンラインによる「フィリピン・スタディプログラム」を実施することになりました。8月に2回実施し、一般募集で集まった方々と国士舘大学の学生、合計33名が参加しました。

スタディプログラムでは、現地との繋がりを感じてもらうため、フィリピンと生中継でつなぎ、地域散策や家庭訪問、インタビュー等、マニラの路上の子どもたちや、パヤタスごみ処分場地域の住民との交流を行いました。パヤタス地区に住むエリンダさん(47歳)からは、日々の暮らしや想いととも、2000年のごみ山崩落事故や、2017年末のごみ山閉鎖に関して話を伺いました。住民に多くの健康被害や悲惨な事故を起こしてきたごみ山が閉鎖されたと聞くと、多くの方が「良かった」と思うのではないのでしょうか。しかし、エリンダさんから聞こえてきたのは、「ごみ山がまた再開してほしい」という言葉でした。ごみ山での収入のおかげで子どもを学校に通わせられたこと、ごみ山での仕事以外に収入を得る手段がないこと等を聞いた参加者は、想像していた答えとは真逆の言葉に少し戸惑う様子も浮かびました。問題だったごみ山が閉鎖されても、問題が解決したわけではないという現実、「閉鎖がいいことなのか悪いことなのか分からなくなった。」「ごみ山はない方が良いと思っていたのに…。」等の感想が聞かれました。同時に、「裏にある想いや背景等を知ると、物事を見る視点が変わってくる。」という意見も聞かれました。私たちは、それぞれの価値観やものさしで物事を判断しがちですが、相手の立場に立ったり、問題の側面や背景を知ったりすることで、本当に必要なことが見えてくるのだと思います。

今回のスタディプログラムで垣間見えた人々の生活や想いは、ほんの一部でしかありません。ごみ山に対する意識や感覚の違いと同じように、立場や見る場所によって物事の見え方は大きく変わってきます。これから先、私たち一人ひとりが正しく行動を起こしていくためには、そこに住む人々の声をよく聞き、本当に必要な活動は何かを考え、多角的な視点で物事を捉えることが大切です。そのうえで、それぞれの立場で「できること」をやり始めること、やり続けることが大切だと考えています。国際理解教育を通して、今後もこうしたきっかけを作っていきたいと思っています。



ジブチ事業

8月19日/ホルホル(ジブチ)

保護者会議に16名が参加



ホルホル難民キャンプで実施した保護者会議に16名の保護者が出席し、難民キャンプで子どもたちが直面している問題や、自分たちが子どもたちにできることについて意見交換を行いました。「今日は女性のみでの参加であったが、今後は男性にも積極的に参加してもらうことで、一緒に子どもの保護について考えていきたい。」等の前向きな声が聞かれました。

ボランティア・寄付推進事業

8月14日/名古屋(日本)

フェアトレード勉強会を実施



聖霊中学高等学校の生徒2名とインターン生2名に対して、アイキャンのフェアトレード事業についての勉強会を行いました。生産団体であるSPNPの設立経緯やこれまでの努力の過程を聞くことで、「わたしたちも頑張って彼女たちが作った商品を販売したい。」等の感想をいただきました。後日、文化祭で商品を販売いただく予定です。

フィリピン事業

8月/マニラ近郊(フィリピン)

ロックダウン(都市封鎖)に備えた食料提供を実施



コロナ禍の活動として、ごみ処分場地域等の計103世帯へ食料提供を実施しました。また、食堂と連携し、路上の子ども25名に対して、1日2食を2週間提供しました。路上の男の子は、「ロックダウン中は稼げなくなり、1日1食しか食べられないと思っていたけど、食堂で美味しいご飯を毎日食べられることができ嬉しいです。」と話してくれました。

能力強化事業(国際理解教育)

8月18日/名古屋(日本)

国内の課題にも目を向けるSDGs



至学館高校の生徒1名が事務所を訪問され、SDGsについて理解を深めました。SDGsは途上国だけでなく、先進国も取り組まなければならない課題がたくさんあり、そういった視点を持つことも重要です。「日本におけるジェンダー問題に関心があり、現状に違和感を感じている。ジェンダー平等に向けて活動していきたい。」と、力強い言葉を聞かせてくれました。